

「ねむろ医心伝信ネットワーク会議」への活動支援

自治体情報

人	□	30,209人
標準財政規模		9,248,460千円
担当課		北海道 根室市 市民福祉部保健課
電話		0153-23-6111 内線(2117)
ホームページ		http://www.city.nemuro.hokkaido.jp/dcitynd.nsf
事業期間		平成19年度から
参考とした施策		
関係施策分類		

施策の概要

1 取り組みに至る背景

地方の医師不足が深刻化する現在、「地元で安心して医療を受けたい。」というのが多くの根室市民の願いである。

こうした願いを形にするため、平成19年10月、根室商工会議所会頭が中心となり市内の医師と交流・親睦を深めるための市民組織「ねむろ医心伝信(いしんでんしん)ネットワーク会議」を立ち上げた。

地域医療を担っている市内の医師と地元市民との様々な交流を通じて、医師に地域への愛着を持ってもらうことにより、働きやすい環境づくりや、より良い地域医療環境を醸成しようとする初の取り組みであり、根室市においても、その活動を積極的に支援する必要があった。



2 事業内容(目的・目標・方策)

前記のことから、働きやすい環境づくりや、より良い地域医療環境の醸成を目的として、行われる以下の取り組みを、根室市が積極的に支援している。

(1) 平成19年度

10月11日根室商工会議所会頭を会長とする「ねむろ医心伝信ネットワーク会議」発足。会員拡大を図りつつ「健康と医療を学ぶ市民講座」「医師と市民の集い」「野外体験交流」等を開催。活動支援として根室市より補助金400千円交付。

(2) 平成20年度

「健康と医療を学ぶ市民講座」「医療講演会」「医師と市民の集い」等を継続開催。活動内容を広く市民に周知し会員拡大を図るため2度にわたりチラシを作成し、地元新聞に折り込む。チラシの中に「コンビニ受診を控えましょう!!」との内容を掲載し市民の自覚を促した。活動支援として根室市より補助金1,000千円交付。うち北海道からの地域再生チャレンジ交付金672千円を充当。

(3) 平成21年度

「医療講演会」「医師と市民の集い」等を継続開催。活動PR用チラシも発行予定。活動支援として根室市より補助金1,000千円交付予定。うち北海道からの地域再生チャレンジ交付金384千円を充当予定。

目標:会員(団体等・個人)増強の推進。

平成21年度末までに

団体等会員 目標口数150口(平成20年度末現在40会員108口)

個人会員 目標口数600口(〃 230会員541口)

※参考:団体等会員は一口5,000円、個人会員は一口500円

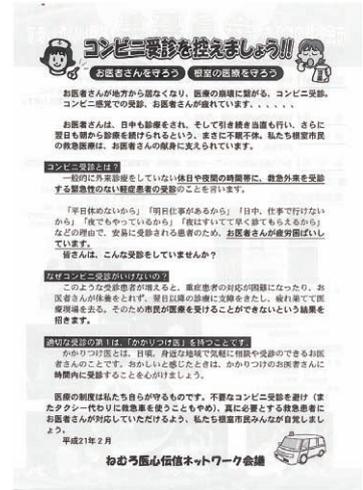
3 施策の開始前に想定した事業効果

根室市で働く医師が、地域への愛着を深めるとともに、市民が地域医療の現状をより深く理解することにより、安定的な地域医療が確保され、安全・安心なまちづくりにつながる。

4 導入にあたり工夫・苦労した点、課題、対処法など

「医師とのスケジュール調整」「会員拡大のための周知機会の創出」等の課題に対処するため、市保健課や市立根室病院職員が役員会に同席し、市立根室病院医師等と「ねむろ医心伝信ネットワーク会議」会員とのスムーズな意思疎通が図れるようお互いをつなぐ役割を果たしている。

また市の行事等においても、あらゆる機会を捉えて、PRの場を確保できるよう努めている。



5 現在の成果・実績、今後の展開など

平成19年度の個人会員数210名から、平成20年度は230名へ会員拡大を図ることができた。

「健康と医療を学ぶ市民講座」「医療講演会」「医師と市民の集い」等の事業展開を通して、市民と医師とのコミュニケーションが図られ、親睦と地域医療への相互理解が深まった。

また、活動PRのためのチラシの発行等を通じ、「コンビニ受診を控える。」など市民への自覚を促す啓発活動の一環とすることができた。

今後とも、市民自らのさまざまな発案により、根室市において働く医師の「働き甲斐や働きやすい環境づくり」のために展開される取り組みを支援することで、魅力ある地域づくりや医師の恒久的な確保・招へいにつなげ、安定的で充実した地域医療環境を醸成できるよう努めてまいりたい。



予算関連データ 根室市

平成20年度額 ①～⑤の計		財源内訳(財源区分:①～⑤)				
		①国費	②県費	③起債	④その他	⑤一般財源
1,000千円		0千円	672千円	0千円	0千円	328千円
①～④の名称・所管等	名称		地域再生チャレンジ交付金			/
	所管		北海道総合政策部 地域づくり支援局			
	金額		672千円			
	補助率		10/10以内			